

脱プラスチックで 未来を守る農業を

水稲用一発肥料には**プラスチック**が使われています。

被覆肥料は、プラスチック等で肥料をコーティングしているため、肥効の調節が可能です。施肥回数減による軽労化、施肥量の削減、養分の流出防止などの利点がありますが、一方で肥料成分が溶出した後の被膜殻が河川や海へ流出することが問題になっています。

水田から流出させない**対策**をお願いします!!



被覆肥料の殻



移植
時期

代かきによって巻き上げられた殻が移植前の落水時に流れ出てしまいます。

被覆肥料のプラスチック殻を水田から流出させない**対策**

対策

01



浅水代かき

対策

02



捕集ネットの使用

対策のポイント

対策をしっかり行い、被覆肥料のプラスチック殻は
水田から流出させないようにしましょう！

対策

01

浅水代かき

◎均平化

入水前に田面はできるだけ均平にしましょう。

◎畦畔管理

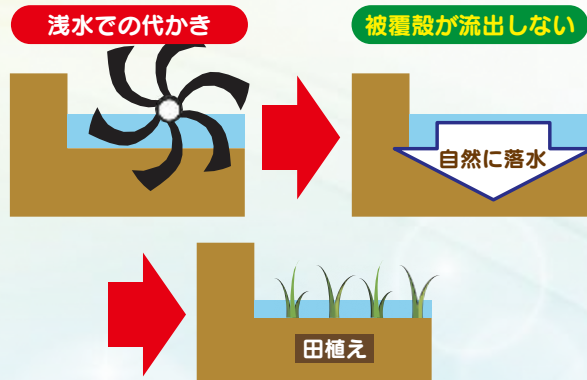
あぜが崩れていないか確認しましょう。
排水溝には止水板を設置しましょう。

◎入水量

大部分の地表が見えるくらい浅めの入水にしましょう。

◎自然落水

移植前の落水は行わず自然落水により水位を調整しましょう。



対策

02

捕集ネットの使用

※強制落水を行う場合の対応策です。

①材料を揃える

材料一例 / ①王ねぎネット
100円ショップで入手可 ※ネットの網目は2ミリ以下

②BBQ用の網

③クリップ

④園芸用支柱



②水尻に設置



被覆肥料の殻の
流出防止対策動画

You Tube に
て対策動画を公
開しています。



藁詰まりを防ぐため、園芸用の柵を設置しても微細な浮遊物や根がネットに付着し、落水が長時間にわたる、または停止する場合があります。

その他の対策

- 風により水田壁面に吹き寄せられた浮遊殻の捕集
- 緩効性肥料や流し込み肥料等など、被覆肥料を用いない他の省力技術の導入

実施可能な流出防止策を検討し、被覆殻の流出防止に留意しましょう！

〈製造メーカー・全農による共同研究・開発について〉

- ①環境にも配慮するため、光や微生物の働きにより土壌中に崩壊・分解しやすくなるように各メーカー工夫をしていますが、分解するまでかなりの時間がかかります。
- ②より速やかに分解させる技術の確立を目指し、メーカーと協力して研究開発に取り組んでいます。